



地域といのちのよりどころ小国診療所！ 地元の医療機関を守ることが大切

患者さんの生活全般のサポートが必要

5月14日(金)遠藤れい子県会議員、笠井則雄長岡市議は、たいらあやこ衆議院2区予定候補とともに小国診療所を訪問し、小林次雄所長、渡辺鉄也事務長らと懇談しました。懇談には、細井よしお元長岡市議、遠藤健男小国支所長も同席しました。



左から、笠井市議、遠藤県議、たいらあや子、細井前市議

もともとは常勤医2名体制。現在は小国医療センターとして診療のほか検診も開設、保健師も常駐し、検診に力を入れることで小国地域の国保料も下がった実績があります。

医師の退職により体制困難に、平成20年代の患者さんが来る「若いな」と感じてしまいうくらい高齢化が進んでいるとし、豪雪地帯のため、冬場は子どもも家で越冬する独居老人も多く、住民のことを考えれば、単に医療提供だけではなく公共交通など生活全般をきちんとしてあげられるような社会的なサポートが必要であると話されました。

8年に入院病棟が廃止され、現在は常勤医1名の週3日の内科外来と個人委託の月4～5日の整形外来というかたちになりました。

小林所長の奮闘をいかにサポートするか

小林所長は、診療所に来る患者の9割が75歳以上で、たまに60代の患者さんが来る「若いな」と感じてしまいうくらい高齢化が進んでいるとし、豪雪地帯のため、冬場は子どもも家で越冬する独居老人も多く、住民のことを考えれば、単に医療提供だけではなく公共交通など生活全般をきちんとしてあげられるような社会的なサポートが必要であると話されました。

1日平均40人の外来患者が診療に来る多忙な毎日です

が、「病気以外の患者さんの生活状況など様々な話ができるので仕事は非常に楽しく感じている」とも。

「過疎化が進む地域で住のセーフティネットを政民が安心して暮らし続ける責任でしっかりと確立けるには、医療・介護・福祉していくことが必要だと社、そして公共交通など感じました」

〔長岡市でワクチン個別接種受付と集団接種の拡充についてはじまる〕

新型コロナウイルスワクチンの「個別接種」について、市内81か所の医療機関からのご協力により6月1日から実施されます。

自民党・公明党

は連休を挟んで、高齢者医療費2倍化法案を衆議院で通過させました。コロナ感染が収束しない中で、高齢者の医療費を2倍にすることは、高齢者の医療へのかかりやすさを後退させ、医療の重症化を招く危険がたいへん大きい。

変異株が感染を拡大させている中においてオリンピックは中止してコロナ対策に万全を力を傾注すべきは国民へのワクチン接種

オリンピックは中止してコロナ対策に万全を力を傾注すべきは国民へのワクチン接種

またアスリート個々に責任を転嫁し強度のストレスを強いることにもなりません。オリンピックは中止して、次の希望に向かっての提案を政府として行うべきであると考えます。